



### 令和2年度 目標達成シート

基本方針	達成目標						成果と課題																																																													
	(令和2年度における目標)						(成果、分析、評価、課題、対応)																																																													
<p>1 ミッション</p> <p>(1) 芸術文化の創造・発信の拠点 東京の音楽・舞台芸術を代表する顔として長期的な視点にたった作品創造と国内外への発信</p> <p>(2) 人材育成の拠点 舞台芸術の現場をささえるプロフェッショナルの育成</p> <p>(3) 教育普及の拠点 次代を担う子供たちへの本物の舞台芸術の伝達</p> <p>(4) 賑わいの拠点 芸術の香りのする、誰にとっても楽しく賑わいのある空間の創出</p>	<p>定性目標</p>	<p>①安心・安全の確保、ダイバーシティの推進 開館30年目を迎え、大規模修繕からも8年が経過しており、建物・設備の経年劣化がみられることから、日常点検を適切に実施するとともに、ホール運営事業との調整を行いつつ時機を捉えた補修を実施する。また、災害時・緊急時に備え、職員と委託事業者が連携を密にした避難訓練や安全対策を実施し、東京2020大会の開催を迎え、危機管理体制の強化を図る。さらに、ダイバーシティを意識し、バリアフリー化を進め、ホスピタリティ向上に努める。</p> <p>②国内外におけるプレゼンスの向上 東京2020大会の開催、開館30周年を意識したクオリティーの高い創造発信事業を行い、話題性のある作品を上演する。国内においては地方館との結びつきを深め、相互連携プログラムを強化する。国際的にも舞台芸術界における東京芸術劇場のブランド化を図る。</p> <p>③地域に根ざした事業展開 東京都の文化行政との連携を意識した事業展開を行うとともに、東京芸術祭の拠点として、公演を成功裏に終わらせる。また、豊島区及び池袋地域各種団体が主催する地域イベントを様々な形で支援する。</p> <p>④人材育成・教育普及事業の効果的な展開 日本の舞台芸術を発展させるアーティスト、スタッフの育成に資する東京芸術劇場ならではのシステムを強化する。また、子供たちへの舞台芸術との出会いをデザインする。さらに、障害や社会的課題を持つ人々の芸術活動環境の整備、充実を図る。</p>						<p>4月7日の「緊急事態宣言」により、2カ月休館となり、宣言終了後も、公演関係者の稽古が十分に出来ず、7月までほとんどの公演が中止もしくは延期となった。再開後は、業界のガイドラインに基づき、舞台と客席の間にビニールシートを垂らすなどのコロナ感染防止対策を徹底しながら、安全安心な館運営に努め、公演を実施した。建物設備に経年劣化がみられるが、年間を通して不具合はなく、現在劣化診断の結果待ちである。開館30周年の記念日である10月30日には、「フィガロの結婚」「真夏の夜の夢」を上演することが出来、記念パーティーに替えて近隣の関係者に記念グッズをお渡しして好評を得た。</p> <p>緊急事態宣言の発出により、大手から小劇場集団まで200超の舞台芸術関係者による「緊急事態舞台芸術ネットワーク」が、クラシック音楽業界では「クラシック音楽公演運営推進協議会」が組織されたが、両者の発足にあたっては芸劇が多大な貢献をした。これらの団体が、文化庁と公文協で作成した劇場再開のガイドラインに基づき、業界としてのガイドラインを作成し、感染防止に取り組んでいる。2020年の読売演劇大賞「真夏の夜の夢」に主演された鈴木杏さんが最優秀女優賞とともに、大賞に選ばれた。鈴木杏さんは、紀伊國屋演劇賞の個人賞にも選ばれた。シアターオペラ「フィガロの結婚」は地方劇場での上演も行われた。</p> <p>東京芸術祭は、メイン事業の「ローマ悲劇三部作」の招聘を断念し、演出家イヴォ・ヴァン・ホーヴェの演出作品の字幕付き上映に切り替え、また、タニノクローはフィジカルな公演内容からVRIによる映像上演に切り替えるなど、柔軟に対応した。3年目を迎えたサラダ音楽祭は規模縮小し、コンサートホール公演に加え、豊島区と連携してグローバルシアターでのミニコンサートを実施した。</p> <p>緊急事態宣言終了後、野田芸術監督による東京演劇道場の道場生を中心とした4組の役者たちを演出する「赤鬼」を宣言再開後に実施し、感染症対策を徹底して無事最後まで公演できた。音楽のジュニア・アンサンブルの事業では、コロナ禍で時間のできた指導者が熱心に教えてくれて成果が上がった。障害者アーツ事業ではリモートも取り入れるなど工夫して行った。</p>																																																												
<p>2 基本方針</p> <p>(1) 「東京文化ビジョン」等に基づく着実な事業推進</p> <p>(2) 劇場法の理念に基づく劇場運営</p> <p>(3) 劇場の安全・安心の確保</p> <p>(4) 顧客満足度の高いサービスの提供</p> <p>(5) 地域に根ざした劇場運営</p> <p>(6) 効果的で効率的な管理運営</p> <p>(7) コンプライアンスの徹底</p>		<p>定量目標</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>【定量目標】</th> <th>29年度実績</th> <th>30年度実績</th> <th>31年度実績</th> <th>R2年度目標値</th> <th>R2年度達成値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>稼働率：大ホール(%)</td> <td>74.7</td> <td>78.2</td> <td>76.1</td> <td>62.0</td> <td>57.9</td> </tr> <tr> <td>稼働率：中ホール(%)</td> <td>98.6</td> <td>98.5</td> <td>99.2</td> <td>87.0</td> <td>67.0</td> </tr> <tr> <td>稼働率：小ホール1(%)</td> <td>99.0</td> <td>98.9</td> <td>99.8</td> <td>96.0</td> <td>83.3</td> </tr> <tr> <td>稼働率：小ホール2(%)</td> <td>99.0</td> <td>98.7</td> <td>97.9</td> <td>94.0</td> <td>70.6</td> </tr> <tr> <td>自主事業等入場者数(人)</td> <td>282,885</td> <td>346,565</td> <td>282,257</td> <td>350,000</td> <td>102,787</td> </tr> <tr> <td>《事業実績値》</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>附属事業収入(千円)</td> <td>98,149</td> <td>98,139</td> <td>87,012</td> <td rowspan="4" style="text-align:center;">/</td> <td>55,866</td> </tr> <tr> <td>協賛金等獲得金額(千円)</td> <td>123,428</td> <td>331,885</td> <td>113,295</td> <td>145,343</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>6,516,572</td> <td>6,459,392</td> <td>6,295,116</td> <td>3,860,872</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	【定量目標】	29年度実績	30年度実績	31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値	稼働率：大ホール(%)	74.7	78.2	76.1	62.0	57.9	稼働率：中ホール(%)	98.6	98.5	99.2	87.0	67.0	稼働率：小ホール1(%)	99.0	98.9	99.8	96.0	83.3	稼働率：小ホール2(%)	99.0	98.7	97.9	94.0	70.6	自主事業等入場者数(人)	282,885	346,565	282,257	350,000	102,787	《事業実績値》						附属事業収入(千円)	98,149	98,139	87,012	/	55,866	協賛金等獲得金額(千円)	123,428	331,885	113,295	145,343	HPアクセス件数	6,516,572	6,459,392	6,295,116	3,860,872						(成果、分析、評価、課題、対応)	
【定量目標】			29年度実績	30年度実績	31年度実績	R2年度目標値	R2年度達成値																																																													
稼働率：大ホール(%)			74.7	78.2	76.1	62.0	57.9																																																													
稼働率：中ホール(%)	98.6		98.5	99.2	87.0	67.0																																																														
稼働率：小ホール1(%)	99.0		98.9	99.8	96.0	83.3																																																														
稼働率：小ホール2(%)	99.0		98.7	97.9	94.0	70.6																																																														
自主事業等入場者数(人)	282,885		346,565	282,257	350,000	102,787																																																														
《事業実績値》																																																																				
附属事業収入(千円)	98,149	98,139	87,012	/	55,866																																																															
協賛金等獲得金額(千円)	123,428	331,885	113,295		145,343																																																															
HPアクセス件数	6,516,572	6,459,392	6,295,116		3,860,872																																																															
総合的な所見(自己評価の総評)						(成果、分析、評価、課題、対応)																																																														
<p>令和2年度決算見込みは、6月末時点でおよそ6億4千万円の赤字(内訳は、自主事業が1億7千万円の減、ホール等の貸出収入が4億7千万円の減)と予想していたが、芸劇30周年を迎え、財団からの特定資産1億4千万円、文化庁からの補助金6千万円を活用して活動し、その後も、経済産業省のJ-LODiveから7700万円、文化庁の収益力強化事業として840万円の外部資金を獲得した結果、自主事業は黒字化し、特定資産を全額使用せずに事業実施が出来た。</p> <p>1回目の非常事態宣言解除後は、公演を実施できたことにより、受託会計でホール等貸出収入不足は2億4千万円まで回復し、経費削減努力もあり、受託会計は約1億円ほどの赤字にまで回復した。そして、貸出収入では、利用料金制のため指定管理料とすることで、財団本部による都への粘り強い交渉により、東京都からキャンセル分については補填されることになり、収支相償を達成できた。</p> <p>このような状況の中、田中泯さんがJaDaFo(日本ダンスフォーラム)賞大賞を受賞、読売演劇大賞には、昨年の橋爪功さんに続き、「真夏の夜の夢」主演の鈴木杏さんが最優秀女優賞とともに、大賞に選ばれた。鈴木杏さんは、紀伊國屋演劇賞の個人賞にも選ばれ、質の高い公演を実施できた。</p> <p>演劇・舞踊関係の「緊急事態舞台芸術ネットワーク」、クラシック音楽業界の「クラシック音楽公演運営推進協議会」と、業界のネットワーク化に貢献することが出来、今後は、業界と共に文化庁などとも積極的に交渉していきたい。</p>						<p>コロナの影響によるキャンセル返金希望が186コマ生じたことにより、稼働率が低下し、目標値に達しなかったが、コロナ禍においては健闘した。(休館中はカウント外)</p> <p>プレイハウスは、プロフェッショナルな興行元の長期使用が多いため、再開後も公演中止の影響を受け、稼働率が大幅に下がった。(休館中はカウント外)</p> <p>シアターイーストは、主催事業、提携事業が多く、感染防止対策を行いながら公演が実施出来、8割以上の稼働率を維持できた。(休館中はカウント外)</p> <p>長期公演の中止もあり、稼働率は伸び悩み、目標値を大きく下回った。(休館中はカウント外)</p> <p>2か月間の休館による公演中止、再開後事業実施できたものの、年間を通じて動員は伸び悩んだ。</p> <p>2か月間の休館が響き、その後も来館者の減少により売上も低迷した。5月には1階パン屋が退店、2月にはさらに2階のイタリアンが退店。パン屋の退店後には別店舗が入店したが、2階店舗は空き状態であり、別の用途での使用を計画中。</p> <p>30周年記念にちなみ、一昨年より、芸劇パートナーズには複数口数の協力依頼などで健闘した。さらに、コロナ補正予算である経産省のJ-LODive、文化庁の収益力強化事業といった外部資金の獲得に尽力した。</p> <p>休館中にアクセス数が落ち込み、再開後も公演のキャンセルなど公演数の減少に伴い落ち込んだものの、3月以降回復傾向である。</p>																																																														
外部評価 評定結果						総合的な意見(総評)																																																														
<p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている</p> <p>B: 目標を概ね達成している</p> <p>C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>						<p>・長引くコロナ禍での緊急事態によって、プログラムの変更、日程調整、感染予防対策等の上演時の運営など数々のご苦労の中、公共劇場として幅広い層の市民が興味を持って楽しめるプログラムと、一方、新しい価値の創造や発掘そして人材育成のためのプログラムが両立・融合するよう様々な工夫がなされ、個々の事業の達成は目標通りとはならなかったが、外部資金獲得の努力も成果を上げ、健闘したと思う。芸劇の企画力と質の高い公演は、2020年の主演俳優の数々の素晴らしい受賞からも窺える。200超の舞台芸術関係者による「緊急事態舞台芸術ネットワーク」及びクラシック音楽業界での「クラシック音楽公演維持推進協議会」の発足への貢献は、30周年を迎えたこれまでの芸劇の実績とネットワークの力によるところが大きかったと推察される。コロナ感染症による外出自粛などでやむを得ず中止・縮小した事業も少なからずあり、この期間の評価を行うのは困難であるが、この状況下で、実施に至らなかった事業でも、実施に向けての関係者の様々な努力により、新たな運営方法の可能性が見出された事業があることも素晴らしい。コロナ禍は未だ先が見えず、来年度は備えとして、必ずしも海外の著名オーケストラの招聘によるブランド向上に頼らない方法やプログラムを組んでいく必要があると考える。</p> <p>・令和2年度はコロナ禍による緊急事態宣言の発出を受けて、「緊急事態舞台芸術ネットワーク」や「クラシック音楽公演運営推進協議会」が結成された。その発足に当たって東京芸術劇場が多大な貢献をしたことを高く評価する。社会全体の中でも特に舞台芸術はコロナ禍により深刻な影響を受けた。コロナ禍による公演中止等のために、芸劇の例年の自主事業等の入場者数はおよそ30万人内外であったものが、令和2年度は約9万人にまで落ち込んでいることから、その影響の甚大さがわかる。これは、通常年の社会状況とはまったく異なっていることから、いかに来館者間の感染の拡大を防ぎつつ劇場やホールを再開することができたか、または、いかに将来に向けた活動再開のヒントを得ることができたかが令和2年度の事業評価の重要なテーマとなると思われる。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により、「不要不急」の外出や人の集まりが制限される中、劇場やコンサートホールにおいては非常に多くの公演が中止となった。そのような状況に対して、何とかして公演を実施したいという多くの劇場関係者の努力により、令和2年の秋以降からは業界の定めるガイドラインに沿って一定程度の公演が上演されるに至った。芸劇では、そうした中から「真夏の夜の夢」などの優れた成果を挙げた舞台が生まれた。</p> <p>この間の経営面の努力については、各種補助金の獲得状況は達成度が理解しやすい一方、貸館事業の収支相償の達成という点については、現在の劇場側自己評価の説明では状況が分かりにくい。わかりやすい説明をお願いしたい。</p> <p>・①総合的に、新型コロナウイルス感染拡大を受けた苦境の中に在っても、それなりの最善が尽くされていたという印象を受ける。音楽部門では読響のシリーズ、「フィガロの結婚」、また演劇部門では「真夏の夜の夢」「パレード」の上演など、この時期によく実施できたと思われる上演もあった。制作関係者の努力を讃えたい。②以前にも要望したが、聴衆へのサービスの一環として、音楽部門での公演のアンコール曲掲載を、主催公演・貸しホール公演においても、ぜひ実施するべきである。③店舗の撤退は残念だが、「別の用途」とはいっても、代わりにあまりヘンな店は入れないでいただきたい。レストランとティー・ルームは、休憩回廊の一環として必要である(1店だけでは、貸し切りになることが多いと、他の客はどうしようもない)。</p> <p>・極めてコロナ禍という困難な状態において、ぎりぎりの選択のもと、公演された演目等においては十分な成果を上げたと思う。目標に対しては、概ね成果を評価する。</p>																																																														